

芦生の花期（草本）調査について

登尾 久嗣

1. はじめに

芦生演習林は、暖帯落葉樹林帯から温帯落葉樹林帯への移行帯にあり、また気候的には日本海型から太平洋型へ移行する地域に位置するため植物種の多いことは前回の報告で述べたとおりである。しかし、今日までに草本植物の花期についての報告はほとんどされていない。芦生への来訪者は近年増加の傾向にあり、春から秋にかけて咲く草花について興味を持つ人も多い。今後こうした要求がますます高くなるのは必至であり、数多い種の一部にすぎないが、今回は草本の花期について報告する。

2. 調査地と調査方法

芦生演習林には、総延長34kmにも及ぶ林道が開設されており、沿線には数多くの花が見られる。今回も前回の木本と同様幹線林道である事務所構内から長治谷間の沿線を、標高の低い事務所構内（標高356m）～幽仙橋（標高476m）と標高の高い樺峠（標高765m）～長治谷（標高640m）の2区間（図-1）に分け花期の比較を行った。事務所構内と長治谷は標高差が284mあり、気象上も過去の観測によれば長治谷は平均気温で2℃前後低く、降水量は約400mm多い。これは特に冬期の降雪量が多いため積雪深も1m前後多くなっている。

本調査は、1週間毎に目視により開花（数輪開花）から落下（数輪残花）までをチェックする方法で行った。なお、1週間毎のチェックのため開花時期を見逃したものが多く、今回の報告の対象から除外しなければならなかったことは残念である。今後、機会があれば補足していきたい。

3. 調査結果

花期調査の結果は、表1～2に示すとおりである。過去3年間（1993～1995年）の調査を通して、その間の最も早い開花から最も遅い落花までをその種の花期としたが、単年度の調査しかできなかった種（※印）もあり不十分なものとなった。今回も、開花の早い順に整理したが、種によって花期は長いもの（樺峠～長治谷間 シシウド71日間）、短いもの（樺峠～長治谷間 トキワイカリソウ13日間）があり差が著しい。また同種であっても場所、条件により様々で花期の固定化はかなり難しい。全体を通していえる事は、前回の木本の調査でも述べたが春の花の開花は雪解けの早いところ（低標高地）が早く、秋の花は気温の低いところ（高標高地）が早い傾向にある。（表-3）

4. おわりに

本調査は、業務との関係で作業の往復に最も多く使用する幹線林道を主に行ったもので、決して十分なものとはいえないが、少しでも芦生を訪れる人たちの参考になれば幸いである。

表-1 芦生の花ごよみ（事務所構内～幽仙橋）

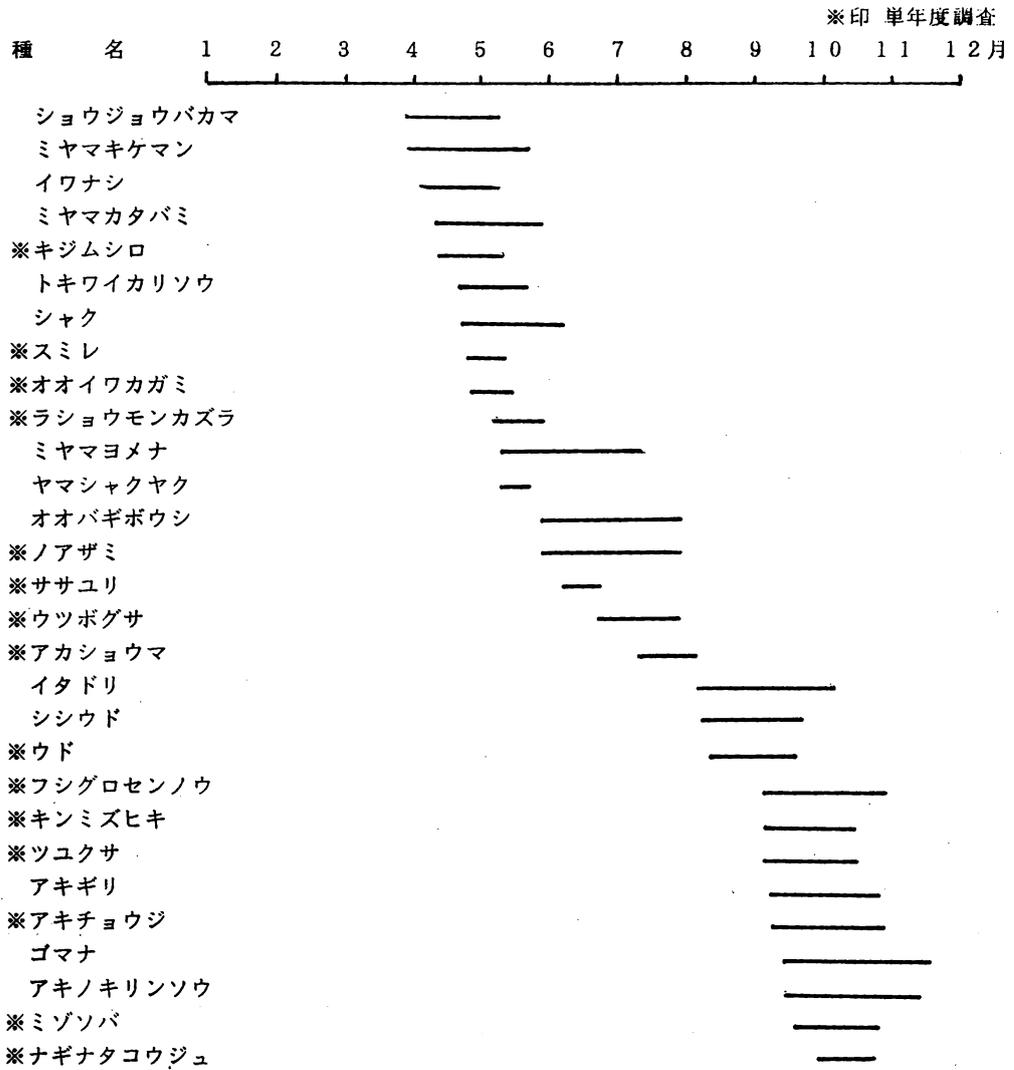


表-2 芦生の花ごよみ (櫻峠～長治谷)

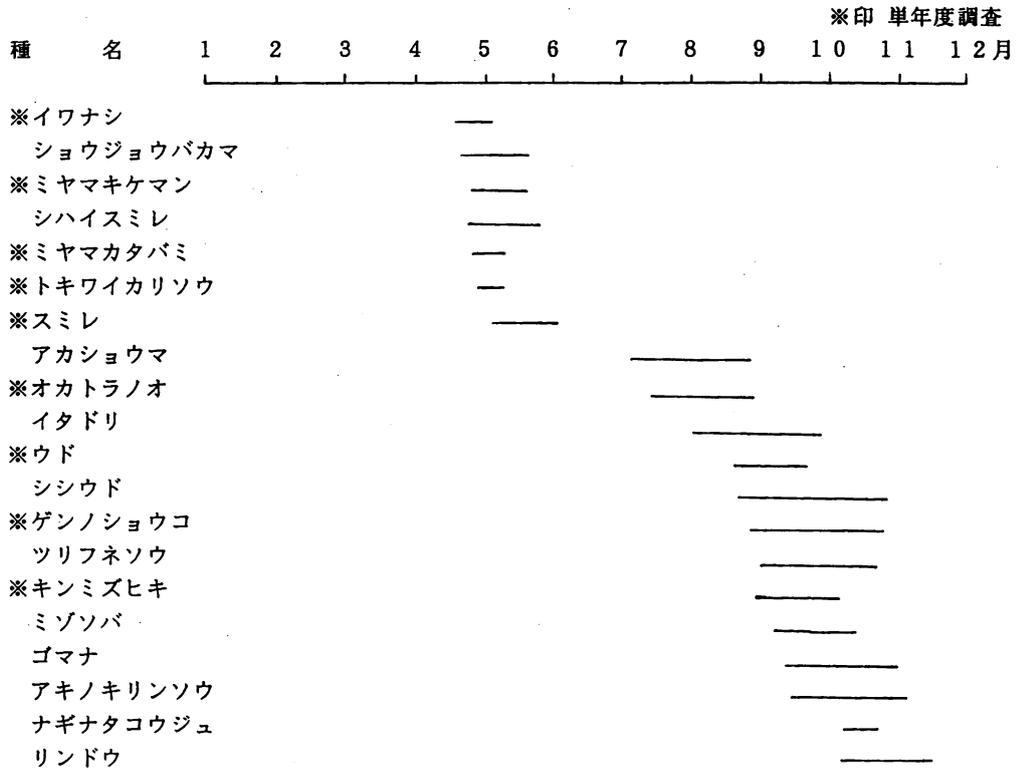
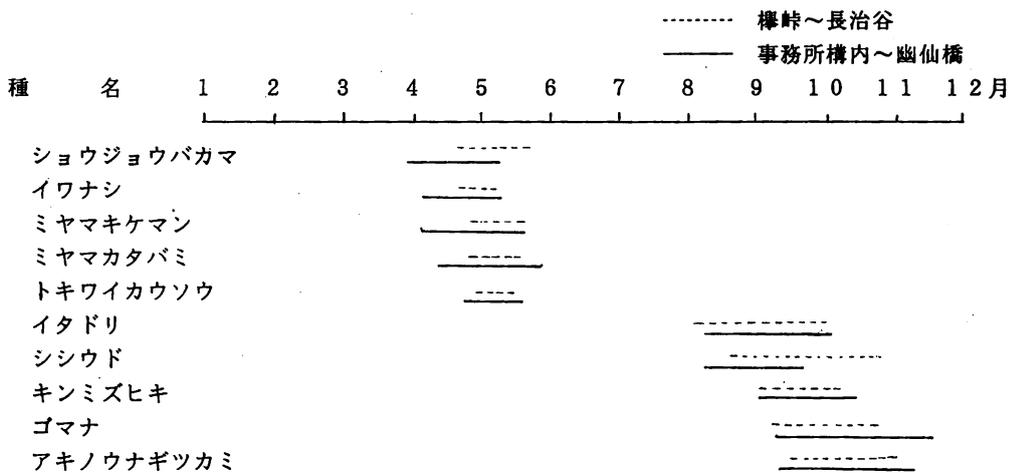


表-3 主な種の花期比較



图一 1 花期調査区間位置图

